

Sky High

2019/12/4

修学旅行を終えて

1 1 月 2 0 日から 2 5 日まで、アメリカ西海岸への修学旅行が行われました。全日程とも滞りなく進み、2 年生のみなさんはスケールの大きなアメリカを体感してることができたようです。

英語を実際に使うことによって自分に自信が持てるようになった人、ロサンゼルスの大都会の景色を目に焼き付けてきた人、友人との絆を深めた人、アメリカに行って逆に日本の良さを再認識してきた人などさまざまでしょうが、ひとりひとり自分の価値観や人生観にプラスとなったのではないのでしょうか。

さて、今回、大きなトラブルもなく、無事にアメリカに行って日本に帰ってることができたのは、いろいろな人たちのおかげだと思います。そこで、皆さんには 4 つの感謝をしてほしいと思います。

まず 1 つめは、添乗員さん、旅行業者の方々、現地のガイドさん、ドライバーさん、客室乗務員の方々など、みなさんの旅行を支えてくださった多くの方々感謝しなければなりません。ついわがままなことを言ってしまったときも、具合が悪くなったときにも、常に嫌な顔ひとつせず笑顔で応じてくださったことでしょう。日ごろ、人と接するときに忘れてしまっているようなことを教えられたような気がします。

次に、先生方のおかげでもあります。特に引率の先生にはたいへんお世話になりました。年度当初から、修学旅行係の志賀翔先生は、今回の旅行の事務的な仕事や業者さんとの折衝など、連日遅くまで学校に残って仕事をしていました。石澤先生は、安心・安全な旅行とするために、事前資料などをまとめ上げてくれました。団長の清野先生、引率の中村先生、学校や出張先で常にみなさんのことを心配していた校長先生、教頭先生、事務長先生にも感謝しなければなりません。教科担当の先生方にも、授業中に修学旅行に関する指導をしてくれました。帰国時には夜遅いにもかかわらず、福島駅や学校で出迎えの準備をしていた先生も大勢いました。ここで挙げきれないほどの先生方の協力で、修学旅行が行われていたということを感じておいてください。

3 つめに、今回の旅行がスムーズに進行できたのは班長のおかげだと思います。班行動、点呼、連絡など、班長には責任感とリーダーシップが求められます。私も高校時代、修学旅行の班長をしたので、その苦労はよく分かります。自分のことだけでもたいへんなのに、班をまとめなければならないという重圧も背負わなければなりませんでした。もちろん班員みなさんの協力も大きいのですが、班長のみなさん、本当にありがとうございました。

4 つめに、なんと言っても保護者の方やご家族の方々のおかげです。1 6、1 7 歳という感性の豊かな時期にアメリカの地を踏めたということは、とても大きな収穫につながったと思います。保護者の方々は、自分が行きたくても息子や娘には行かせたいと思って高い旅行資金を支払って旅行に出してくださったのです。まだ感謝の言葉を口にしていない人は、今からでも遅くありません。「修学旅行に行かせてくれてありがとう。」と言ってみましょう。もし、照れくさくて言えないというはにかみ屋の君ならば、修学旅行で楽しかったこと、勉強になったことを話して聞かせてあげましょう。親というものは、自分の子どもの成長がとてうれしいものなのです。



修学旅行体験記（生徒作文）

修学旅行を終えて全員に作文を書いてもらいました。各クラス 1 名ずつの作文を紹介します。

In America

2 年 5 組 H.K

私は 6 日間の修学旅行で素晴らしいと感じたこと、またはこんな良いところがあると発見したことがある。

今回の旅行を通して、アメリカの人や地域について素晴らしいと思ったことがある。それは彼らの親しみやすさである。アメリカ人の感じ方と言えば、日本人はシャイだ。話していて仲良くなるまで時間が必要になるのが日本人だ。それと比べて、アメリカの人々は人種が異なっていたとしても親しく気軽に話しかけてくれる。アメリカの良いところを彼らなりに熱心に私たちに教えてくれた。だから、アメリカに滞在するのが 5 日間と考えた時、短すぎると思うほどアメリカの人々に魅力を感じ、行きたい場所も増えてしまった。

ホテルに帰る途中、海に沈みかけている夕日を見た瞬間、悩んでいることをすべて忘れられるような気がした。こんなことは 1 7 年間生きてきて初めてだった。この場所にずっとたずんでいたいと思った。

これはアメリカとは無関係だが、クラスメイトの中に人間的に素晴らしい人を発見した。以前から私はその人が良い人だということは知っていた。だが、彼は私が思う以上に心の優しい人であった。クラスメイトで修学旅行前に骨折して松葉杖をついて行くことになった男の子がいた。周りは自分のことで頭がいっぱいだったのだろう。その男の子を思わず置いていってしまう場面があった。しかし、ある一人のクラスメイトの行動に私は胸を打たれた。松葉杖の彼のスピードに合わせて歩いているその人を見て、私のその人へのイメージが単に優しい人から、きちんと気遣いのできる心の底から優しい人というイメージに変わった。一生に一度しかない修学旅行なのに、私はその男の子に何もしてあげられなかったと少し後悔している。その人から学んだことは、私自身、一生大切にしなければならないと思った。それは、相手を思いやって行動することだった。

当初は遊びに行つて物見遊山で終わると思っていたアメリカへの修学旅行は、私にとって将来、とても役に立つことを学ばせてくれた。

素敵なことを学ばせてくれた彼とアメリカに私は感謝している。

Thank you , America !

車内から見たアメリカ

2 年 6 組 S.G

バスや飛行機で長い移動の後に、私たちはアメリカのロサンゼルスに到着した。日本時間の 1 6 時に離陸した私たちは、1 7 時間の時差も経て時間が逆戻りしてアメリカ時間の 9 時に着き、タイムスリップしたようで驚いたことをよく覚えている。

ロサンゼルスでまず感じたことと言えば、高層ビルが想像していたより案外少なかったことだ。私たちはハリウッドに行く際にビル街の近くを通ったのだが、少し拍子抜けした。

一方、印象的だったのは道路だ。高速道路はたくさんあって、どこへ行くにも高速道路を使って行った。車線も片側 6 車線くらいあったが、夕方のラッシュ時になると全て車で埋まって渋滞にもたびたび巻き込まれた。アメリカは車社会だとは聞いていたが、目の前で見るとやはり圧倒される光景だった。

アメリカでの修学旅行では、有名な観光地はもちろん、車内から見える景色もおもしろく興味深いものだった。またいつかアメリカに行ってみたいと思う。



三者面談始まる

1 2 月中下旬、三者面談が行われます。受験まで約 1 年となり、この時期にしっかりと進路目標を立てて、受験勉強を本格的にスタートさせたいものです。当然のことですが、受験勉強は早く始めた方が、合格できる学力が身につくと言えます。今回は、目標とする志望校・学部・学科まで具体的な話し合いがなされるはずです。一般入試、推薦入試のいずれの入試方法が自分に適しているのかということも考えておく必要があります。特に、推薦入試の場合、大学によっては 3 年生になってすぐに推薦希望の調査・審査が行われるところもあります。また、そのための推薦条件も満たしておかなければなりません。三者面談は限られた短い時間ですので、事前に保護者の方と話し合いをしてから臨むようにしてください。先輩の中には、三者面談中に親子げんかにまで発展して、双方とも歩み寄りがなされぬまま時間切れとなってしまった人がいます。

とは言っても、みなさんの進む進路のことで、保護者の方と意見が食い違っている場合があると思います。みなさんのお父さん、お母さんは理解を示して物わकारの良方々だと思うので、将来の進路のことで深刻なトラブルを起こしてしまうことはないと思います。しかし、親はやはり子どものことに関して心配していることに違いはありませんから、みなさんの希望進路を尊重しているということが、全面的にみなさんを支持していることにつながっているのかもしれませんが。やはり親は親として、みなさんの希望を叶えてあげたいと思う反面、まだ実社会を知らない我が子のことを心配しているはずです。「親は自分の意見に反対ばかりしている」と考えるのではなく、親の本当の不安や期待が、みなさんに素直な形で伝わっているかどうか自分の心を点検してほしいと思います。

日本人は、親と子の改まった会話は苦手で、特に意見が合わない場合は、感情が先走ってまともな話にならなくなってしまいがちです。このようなとき、どのようにして解決をしていますか？ やはり、自分の希望する進路とそれを選んだ理由や目的を、しっかり親に話し、「なぜ親が反対したり、積極的に賛成してくれたりしないのか」ということを聞くことが大事になります。今回の三者面談の前によく話し合う場を設定し、お互い納得のいく結論を出してほしいと思います。

担任・副担任リレー・エッセイ 毎月、担任・副担任が担当するコーナーです。今月は 2 本立て。

石澤コラム vol.2～違いを感じ取って思うこと 石澤 謙輔

修学旅行お疲れ様でした。初めての海外旅行、初めての飛行機搭乗と、初めて尽くしの方もいたのではないのでしょうか。かく言う私も西海岸南部に降り立ったのは初めての経験で、右を見ても左を見ても目新しいものばかりと新鮮な気持ちで同行させてもらいました。

閑話休題、実際に現地を見て歩き、私が感じたことを徒然なるままに書いてみます。まず、現地に着いて驚いたのが、平地のひろ～いこと。見渡す限りの平らな土地。もちろん丘のような地形もありましたが、日本だったらこれでもかと宅地が並んでいるような場所が空き地として残っていました。日本の国土の 7 5 % が山地・丘陵で、7 0 % 弱が森林ということを見ると、これは私にとって驚異的な光景でした。いかに日本が狭い空間を効率的に利用しようとしているか考えさせられました。また、道行く人々のフレンドリーさ。どこに行っても愛想のよい人々が出迎えてくれました。観光地だから、お店だから、外国のお客さんだから……だけでは説明のしようがないほどにアメリカの方々は温かかったです。きっと彼ら彼女らの考え方は、東洋の日本人とは根本から異なるのでしょうね。自分のアイデンティティである「日本人」らしさを見つめ直しつつ、彼らに学ぶことが大いにありました。

日本人らしさとは「和をもって尊しとなす」察しと思いやりの文化だと思っています。一方でアメリカは「主張する」、思ったことをちゃんと相手に口で伝える文化でした。無秩序に口に出すのではなく、伝えたいことを伝えたい言葉ではっきりと伝える。それを受け止め返すだけのおおらかさ。特に私に足りないものを、そこに見たような気がします。ついつい口数が多くなってしまいう私ではありますが、「何を伝えどう聞か」。しかもアメリカの大地のようにひろ～い心を持ちながら。これがこれからの私の一つの挑戦になるのかな、なんて。そんなことを考えた今回の旅でした。え？ 今更遅いって？ 頑張ります！（2 年 5 組担任・地歴公民科教諭）



本多コラム vol.5～ちょっと背伸びした頑張りを～ 本多 康朗

「残念なことだが、才能のある人ほど努力する。」
高校 1 年生の冬、私が部活動の顧問の先生から言われた言葉です。高校 1 年生のころはスターティングメンバーに入りたいけど、入ることができていなかった時期でした。確かに、チームで一番シュートが入る選手は、必ず朝一番に学校へ着き、朝練（シューティング）をしていました。しかもただのシューティングではなく、必ず目標を持っていました。顧問の先生がその選手のことを認める意味で言ったかは定かではありませんが、自分もやらなきゃいけないという気持ちになったのを覚えています。

そこで、私もその次の日から、始発の電車から急いで降りて、全力で自転車をこぎ、朝練に参加し、1 回でも多く筋トレをするようにしていました。（入部当初から、先輩からシューティングではなく筋トレをするように言われていたため。）その甲斐もあって、2 年生の冬の新人戦、ちょうど今の時期に一番筋力がある選手になることができ、スターティングメンバーに選ばれるようになり、相手の重量級の選手を抑え、ゴール下で体を張る仕事を任されるようになりました。（ただ、自分より 1 5 cm 以上大きい人を相手にすると、肘が何回も頭に当たり嫌な思いをしました。笑）

自分がちょっと背伸びした努力をして実を結んだ出来事です。皆さんもどこかで、このような経験があるかもしれませんね。

実は、このちょっと背伸びが大事なのです。筋力トレーニングの理論の中に、「漸進性」「過負荷性」という言葉があります。これがちょっとの背伸びなのです。

かなり背伸びをすると、結局無理をしているだけで、体調をそのうちに崩します。背伸びをしないと（ずっと同じトレーニングをしていると）、伸びが少ない。むしろ筋力が減り、逆効果という研究データがあります。

ウエイトをちょっと増やす、回数をちょっと増やす。このちょっとの繰り返し、成長のコツなのです。このことは、筋トレだけではなく、勉強でも日常でも同じことが言えます。3 0 分だった勉強を 3 5 分にしてみる。できなかった問題にチャレンジしてみる。ちょっと早起きしてみる。1 年後の自分を素晴らしくするために、ちょっとの背伸び始めてみませんか？（2 学年副担任・理科教諭）

1 2月の予定（冬休み明けまで）

12/ 4（水）・ 5（木）	秋の行事費納入日（事務室へ）
5（木）	2 学年進学講演会（5・6 校時・東校舎4 階4 3 2 教室） 「受験を意識した高校生活のスタート」（河合塾東北支社 木村健治先生） ※保護者の方は13:20 までに会場へお入りください。「欠席」で提出された方も当日の参加可能です。
7（土）	考查前学校開放 ※先生への質問を整理して明確にしておこう！
9（月）～ 1 2（木）	後期中間考查 ※評定平均値を意識した取り組みを！
1 4（土）	本校オープンスクール③（中学3 年生とその保護者対象）
1 6（月）	三者面談開始（各教室にて・クラスごとの日程表を参照） ※保護者の方は上履きをご持参ください。外履きは昇降口に置かず教室までお持ちください。来客用駐車場には限りがありますので、できるだけ自家用車以外でおいでください。 ※今回は三者面談を行うので、保護者懇談会は実施しません。
1 8（水）	G T E C（英語4 技能試験）
2 0（金）	教室ワックスがけ（放課後）
2 1（土）	サタスタ（理科・社会）
2 4（火）	全校集会③（午後）
2 5（水）～ 2 7（金）	冬期講習
2 8（土） ～1/ 5（日）	学校閉鎖 ※部活動は顧問の指示による。
6（月）	推薦入試準備 ※在校生は午後、学校敷地内立入禁止
7（火）	冬期休業終わり・本校推薦入試 ※在校生は終日、学校敷地内立入禁止
8（水）	全校集会④・一斉指導（頭髪・服装検査）・入試準備 11:35 完全下校の予定 ※在校生は4 校時以降、学校敷地内立入禁止
9（木）	本校一般入試（自宅学習） ※在校生は終日、学校敷地内立入禁止
1 0（金）	一般入試処理日（自宅学習） ※在校生は終日、学校敷地内立入禁止

保護者の皆様へ

過日行われた修学旅行におきまして、保護者の皆様方のご理解とご協力のおかげで、無事終了することができました。厚く御礼申し上げます。生徒たちは、英語が通じたり、海外の文化を体得できたり、友人との仲が深まったりと、意義深い修学旅行となったようです。この旅行を通して、ひとりひとりがひとまわりもふたまわりも成長したように感じられます。

さて、2 年生にとっての次なる目標は、いよいよ進路実現ということになります。少子化の時代を迎え、以前より大学入試も倍率が下がって入りやすくなってきたと言われます。しかし、来年度、センター試験が共通テストに変更となり、2 年前から私立大学では定員の厳格化が図られ、特に首都圏の大学や、仙台などの地方都市の大学の倍率と偏差値が上がっています。ここ2 年、滑り止めとして受験した大学が入れないという事態が生じています。早めに進路に対する意識を高めて、地道な努力を積み重ねられるように指導していきたいと考えております。ご家

庭におかれましても、進路についての話し合い、推薦・AO 入試をお考えの場合には、面接の練習の機会を設けていただければと思います。

いつも申し上げているように、お子さんの成長は学校だけでも家庭だけでもうまくいくものではありません。双方が協力し合って、ひとりひとりのお子さんを伸ばしていきたいと考えておりますので、今後ともご協力くださいますよう、お願いいたします。

三者面談では有意義な話し合いができるものと楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。

写真で振り返る修学旅行





(撮影：石澤謙輔先生・志賀翔先生)